

令和3年5月1日

竹早教員保育士養成所
所長 齊藤 光一 殿

竹早教員保育士養成所
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

I. 学校関係者評価委員会出席者

芦野 裕一 (学校法人彰栄学園 常務理事)
佐藤 良文 (学校法人明照学園明照幼稚園 園長)
佐々木 妙子 (一般社団法人慈愛会慈愛会保育園 園長)
湯澤 都与子 (竹早教員保育士養成所同窓会 理事)

II. 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年3月1日 (会場：竹早教員保育士養成所 第1校舎第1教室)

III. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

1. 学校の理念、教育目標

学校の理念、教育目標は普遍的なものであるが、近年、社会の保育に対する期待が増大して学生の質が問題となっている。時代とともに問題点に対応することを確認。

2. 重点目標と達成計画

本校では、学生に以下の資質を培うために教職員が一体となって取り組んでいる。そして、学生が節度ある態度や行動、学ぶ意欲をもち、積極的に学習に取り組むことを期待している。

(1) 指導力・実践力を身に付けた幼稚園教員・保育士

- ・保育者としての使命感を自覚し、保育に関する知識や能力の育成を図る。
- ・乳幼児の発達段階・発達課題を理解し、総合的に指導できる能力を育成する。
- ・社会奉仕活動等に積極的に参加し、自らの体験を豊かにするとともに、社会参加の意義を理解する。
- ・特別な配慮を必要とする幼児に対応できる専門的な知識や技能の習得を図る。

(2) 人間性豊かな魅力ある幼稚園教員・保育士

- ・人間的愛情をもって乳幼児に接し、一人一人の感性を育てることに努める。
- ・幼児がお互いを尊重し、社会のルールに従って行動できるよう、学生の指導力を高める。そのために、学生自らも社会的ルールを遵守する。
- ・共に生活できる仲間とのコミュニケーションを深め、協力し合う関係を創り上げる。

3. 評価項目別取組状況の質疑意見は以下のとおり

(1) 基準1 教育理念・目的・育成人材像

本年度は新型コロナウイルスの影響で学校行事ができない状況になっていることと遠隔授業によって触れ合うような授業ができない状況になっていることを確認。

(2) 基準2 学校運営

本年度は新型コロナウイルス対応として、教職員の時差出勤導入し、遠隔授業も取り入れて、学校運営を行ったことを確認。

(3) 基準3 教育活動

新型コロナウイルスの対応で遠隔授業を行った。ご家庭の通信環境が悪い場合はモバイルルーターを貸し出して対応した。パソコンがない学生は、スマートフォンで対応した。5月、7月の保育実習は校内で実習を行った。そして10月の教育実習、1月の保育実習は通常とおり実習園で実習を行うことができた。

なお、学生の不利益にならないようにする必要があること、新型コロナウイルスと共存していくうえで行事が課題になるというご意見があった。

(4) 基準4 学修成果

新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを文部科学省、厚生労働省、特別支援学校のガイドラインを参考に作成した。来校時には体温測定、除菌、昼食は前を向いて食べるなど徹底した。

遠隔授業を導入したことでこれからの対面授業にもいかせることが分かった。

なお、社会性が身につくさまざまな経験ができないというデメリットもあるというご意見があった。

(5) 基準5 学生支援

学校独自の奨学金がないため、日本学生支援機構の給付奨学金、貸与奨学金、各自治体の保育士修学資金の紹介、学費の延納・分納にも対応してできるだけ学費納入で困らないように支援していることを確認。

(6) 基準6 教育環境

消防設備の火災報知器受信盤取替、バスケットゴール取替、新型コロナウイルス対策の備品・用品を導入したことなどを確認。

(7) 基準7 学生の募集と受け入れ

本年度は新型コロナウイルス影響で高校内ガイダンス、学校説明会など予定していた募集活動ができなかった。また、千葉県や埼玉県在住で都内の学校へ行きたくないという今まで聞くことがなかった考えを聞くようにもなった。来年度の入学生は例年に比べて減少することなどを確認。

(8) 基準8 財務

新型コロナウイルスの影響は令和3年度から発生する。大学・短大・専門学校の高等教育機関全体が学生募集に苦戦していると情報が入っている。学校の財務は学生募集と連動することから今までにない厳しい状況になると予想されると確認。

(9) 基準9 法令等の遵守

- ・ SNS等の指導は引き続き行っていくことを確認。

(10) 基準10 社会貢献・地域貢献

- ・ 新型コロナウイルスの影響により何もできなかったことを確認。

4. 令和2年度重点目標達成についての自己評価

今年度は、コロナ禍のため、従来の形での学修ができなくなったが、本養成所の教育目的である「誠実にして有為な保育者の養成」を達成するために学修の機会を確保することを第一に考えた。そこで次のことを重点に取り組んだ。

- ①学習支援システム Google Classroom を導入し、オンラインによる遠隔授業を開始した。毎回の授業において課題提出を課し、これまでと同様に授業への出席について重視する。
一方で学生の通信環境や学習環境に関する調査を実施し、学生の不利益にならないよう配慮も行う。
- ②オンライン授業について学生アンケートを行い実態を把握し、教員同士、オンラインによるわかりやすい授業の進め方について交流する。
- ③演習や実技等、オンラインでは効果が出にくい教授内容については、感染予防を徹底した上で対面授業も実施する。対面授業では、学生同士、学生と教員が協働する体験を通して、時空間を共にして学ぶことの意義を理解し、コミュニケーションを深めるきっかけとする。
- ④毎日登校しないからこそ、報告、連絡、相談の徹底を図る。